

開講年度	令和8年度	開講課程	博士後期課程
授業名	生命薬学特別研究		
開講キャンパス	伏虎	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～3年次
必修・選択の別	選択	単位	10単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(病態解析学) 病態解析 (生物化学) 遺伝情報発現 (生体機能解析学) 感覚、幻覚、疼痛、知覚障害、精神病 (衛生薬学) 代謝酵素		
担当教員 (下線：科目責任者)	医	(病態解析学) 教授 長野一也、講師 山下琢矢、助教 堤峻太郎 (生物化学) 教授 長田茂宏 (生体機能解析学) 教授 那波宏之、准教授 木口倫一、講師 難波寿明 (衛生薬学) 教授 太田 茂、准教授 佐能正剛	
	薬		
授業の概要	遺伝子発現調節、中枢神経系機能異常に基づく慢性疾患の病態生理、体内動態などに関するテーマについて博士論文作成指導を行う。本特別研究では、研究課題の設定から研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的に実験の実施、研究データの収集及び解析を遂行する。		
到達目標	(病態解析学) 「物質」と「生体応答」を紐づける体内動態を基盤に、疾患にとどまらず、未病の段階から総合的に理解・介入するための問題を発掘し、解決できる。 (生物化学) 遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する課題について、専門的知識・技術を活用しながら解決する能力を修得する。 (生体機能解析学) 疼痛や精神疾患など感覚性機能障害を伴う脳神経疾患の最先端研究を紹介し、当該研究の重要性、課題、発展性を理解する。 (衛生薬学) 代謝酵素の発現調節機構や生理機能、疾患や副作用との関連性を見極めるための実験手法や問題解決能力を修得し実践できる。		

授業計画	<p>(病態解析学) 体内動態を基盤とした未病・疾患の理解と制御に関する研究指導を行う。(長野一也/山下琢矢/堤峻太郎)</p> <p>(生物化学) 遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する研究指導を行う。(長田茂宏)</p> <p>(生体機能解析学) 疼痛や精神疾患など感覚性機能障害を伴う脳神経疾患の最先端研究を紹介し、当該研究の重要性、課題、発展性を理解させる。(那波宏之/木口倫一/難波寿明)</p> <p>(衛生薬学) 代謝酵素の発現調節機構や生理機能、疾患や副作用との関連性に関する研究指導を行う。(太田 茂/佐能正剛)</p>
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100%(研究課題の設定内容、研究の遂行状況)によりS(90点以上)、A(80~89点)、B(70~79点)、C(60~69点)、D(59点以下)の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー(学生からの質問事項等への対応)	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	特に指定しない。